

2024_0813「道端のウリ坊（動画）」日々の理科 3659号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

イノシシは「野生のブタ」です。大人のイノシシはブタには似ていませんが、子どものイノシシは子ブタにそっくりです。ちがうのは毛の色です。イノシシの子には体全体に縦の模様があるのです。ちょうど熟しきっていない「カラスウリ」のような感じです。それで「ウリ坊」と呼ばれているのです。ウリ坊の体の模様は、保護色の一つです。春先から初夏にかけて、林床の「こもれ日」が、ウリ坊の姿を見分けにくくしていると考えられています。

今の時期、ウリ坊もずいぶん育って、体の模様も消えてきます。不思議なことに、私が今まで出会ったウリ坊たちは、ヒトに対する警戒心があまりなく、すぐ近くで撮影していても逃げる気配がありません。この日も道端に2匹のウリ坊がいて、車のすぐそばまで寄ってきました。餌をねだっているわけではないのですが、逃げようとはせず、車の下にもぐってくるのではないかと、ヒヤヒヤしていました。短い動画ですが、どうぞご覧ください。

(2024年8月上旬／群馬県高崎市倉渕川浦)

